

NPO 法人 純正律音楽研究会会報 ～2021年5月発行～

ひびきジャーナル



〒168-0072 東京都杉並区高井戸東 3-2-5-102 Tel:03-5317-0291
Fax:03-5317-0289 e-mail:puremusic0804@yahoo.co.jp

発行日 2021年5月14日
発行責任者 NPO 法人 純正律音楽研究会
編集 相坂政夫

No.68



夏の気配が少しずつ濃くなってきた今日この頃、会員の皆様いかがお過ごしでしょうか。

新型コロナウイルスの感染拡大で延長された3回目の「緊急事態宣言」対象の都道府県は東京や大阪、京都、兵庫、愛知、福岡で、期間は5月12日から5月31日までです。前回の会報でお知らせいたしました5月21日開催の「第三回 吉原佐知子 箏リサイタル」は秋10月25日に延期となりました。

今年の純正律音楽研究会コンサート、3月は中止といたしましたが、6月5日は開催予定です。久しぶりのヴァイオリン、ハープ、箏の編成で、代々木上原駅近くの、古賀政男音楽博物館「けやきホール」になります。

全席指定、100名様限定です。よろしく願い申し上げます。
また、9月25日土曜日「純正律音楽コンサート」を千葉県市川駅近くのヤマザキパブリケーションセンター「LLCホール」で開催いたします。

まだまだ新型コロナウイルスの感染者が減っておりません。皆様どうぞお気をつけてお過ごしください。

今後とも純正律音楽研究会をよろしく願い申し上げます。

コロナ禍の世の中の変化

洗足学園音楽大学客員教授・ヴァイオリニスト
NPO 法人 純正律音楽研究会 代表
水野佐知香

季節は移り変わり、夏がそこまできている気配を感じます。
昼間は暑くても、朝晩は気温が下がりひんやり、朝からの洋服選びには頭を抱えている毎日です。

雷、突風、豪雨と「春の嵐」とも言われるような天気、でも、あくる日は穏やか！何かコロナ禍の世の中の変化の、目まぐるしさも感じています。

皆さま！お元気でいらっしゃいますか？

時の流れが早く、2021年もうすぐ半分、玉木宏樹さんが生きていたら、78歳、天国へ旅立たれてもう9年が過ぎました。

今更ながら、事務局長の相坂さんがFBに載せてくださる映像、CDを聴きながら「天才」玉木さんの凄さを実感しています。

コロナ禍での状況も、天国から「困ったもんだねえ」とおっしゃっているようです。

5月21日には、お琴の吉原佐知子さんのリサイタル、王子ホールで、玉木さんの「二つの舞」を演奏する予定でしたが、10月25日に延期となりました。

6月5日には、三宅美子さんと吉原佐知子さんとの三人官女のコンサートが古賀政男音楽博物館「けやきホール」で予定されています。

久しぶりの3人のコンサートにワクワクしています。

どうぞお楽しみにいらしてください！

私事になりますが、この4月からは洗足学園の客員教授となり、併せて武蔵野音楽大学でも教鞭を取ることになりました。まだ生徒はいないので、名前だけですが、大学のある江古田にも時々出没することになります。

どこかでお目にかかりましたら、ぜひお声掛けお願い申し上げます。

最近、教えていた友人たちとも話をして思うことですが、人間の可能性はすごい！頑張れば！努力をすることでいろいろなことができます。

でも、よく自分で無理！才能ないし！お金もないし！自信もないし！時間もないし、と言う人がいます。そういう方は、自分でブロックをしてしまって、できなくしている！そんな気がします。

まず、体調を整える！（体調が悪くないとやろうとすることができないし、不機嫌になったりします）それから挑戦をしてみたらいかがでしょうか？

ゴールは今でなくて良いのです。気がついたらできるようになってる！

いつの間にか自信がついていた。お友達と仲直りをしていた！などなど、「こうなりたい！こうしたい！」という夢をいつまでも持ち続けることが大切なのでは？と思うこの頃です。まだまだ、すばらしい人生が待っているのでは？

玉木さんも天国で夢を持って作曲して、ヴァイオリンを弾かれているのかしら・・・。

ムッシュ黒木の純正律講座 第 67 時限目
平均律普及の思想的背景について(56)
純正律音楽研究会理事 黒木朋興

前回、自然科学系の学問はデータを数値でとって証明を行うが、実験物理学のようにそれらの数値が絶対的な値なわけではなく、集めたデータを解釈して証明を行っていくこと、そしてそのための手法として確率論や統計学の知見が活用されているのを見た。今回は人文科学がデータ=資料をどのように扱っているかについて述べてみたい。

文学研究に代表される人文科学において、数値のデータを全く使わないわけではないがそれでもごくごくレアであることは確かである。人文学研究が使うデータとは文章の形になっており、自然科学が主に実験室で実験データを取るのに対し、人文学は図書館や資料館などで文書を探す。あるいは自然科学系でも生物学などは実験室ではなくフィールドワークを行い観察データを取得するが、人文学でも民俗学や文化人類学などフィールドワークを行う領域はある。その場合、当然、データは必ずしも数値とは限らない。史跡を実際に訪れ写真を撮ったり、その場所で感じたことや思ったことをメモしておくのも重要な研究作業の一つなのだ。

人文学研究は自然科学と違い客観的な証明が難しい、というのは人文学には対する俗説の一つである。既に述べたように、そもそも多くの自然科学研究においても解釈という要素が入る以上、純粹に客観的というわけではないし、人文学研究においても絶対的に客観的な証明ができることがある。例えば、ある作家の手紙が発見されたとするとその手紙が書かれた日時は分かるし、その手紙にある作品の下書きが記されていれば、その時期にその作品の構想を練っていたことが明らかになる。記述次第では、訪れた場所、食べたもの、天気やその作家が会った人なども分かるだろう。

だが、文学研究の基本は校訂作業あることを確認しておきたい。人文学研究など趣味の書物を読んでいるだけ、あるいは、本屋や図書館に行けば書籍が購入でき自分でいくらかでも勉強できるのだからあえて大学で研究する必要はないのではないか、などの声が人文学不要論の中核と言って良いだろうか？ 確かに世の中には本を読んで自分で勉強をしている人も数多い。ならば人文学など大学でやる必要はないのではないか？ 在野でも十分なのではないか？ という声があがるのは当然なのかも知れない。しかし、人文学研究がきちんと行われなければそのような書物が刊行されることはないということを指摘しておきたい。

ヴァイオリンの贋作、その1

純正律音楽研究会 初代代表
玉木宏樹遺作

ヴァイオリンの名器といえはイタリア、その中でも今から、大体 300 年前のストラディヴァリ(以後はストラドと略して書くこともあります)の最高のもは、何億円出しても買えないと言われてはいます。ではそのストラドは本当に名器なんでしょうか？私の結論から申し上げます。それは神話でしかありません。値段が高いからいい音がするわけではなく、300 年も経った楽器はそろそろ寿命が近づいてはいます。

*高いほどいい楽器？

日本での名器の条件とは、バカバカしいのですが値段の高さだといえます。プロのヴァイオリニストでさえ、楽器屋で何本か弾きくらべるときに必ずきく言葉が「これいくら？」です。

ヴァイオリンの高値構造というのは、一部の海外悪徳業者と輸入代理店によってデッチ上げられたものなはのですが、ヴァイオリニストというものは悲しいことに(洋楽の殆どの人も同じ)、最初から自分独自の判断力をもつことを放棄させられてはいます。

ヴァイオリニストにとっての名器とは、いちばん自分の体にフィットして楽に音の出るものときまはっているはずなのに、そのまえにまず金で判断してしまはうのです。その根拠には「同じ腕なら、いい楽器を持っていなければ損」という恐ろしい脅迫観念がはあります。

この、悲惨なまでの道具偏重は、本来の「腕を磨く」という地味な忍耐に対しては、百害あって一利なしの「悪魔のささやき」なはのです。

芸大事件にしても、U 教授がワイロ(それにしても弓一本とはねえ)をもらはったことの是非を云々してもはじまりません。あれは、教師たる立場の人間が生徒に対して、そろそろ君の腕ならこの楽器を.....とささやく構造汚職であることを見抜いて、その中核に迫らなないと、どうにもならない事件だと思はいます。

ここで、名器の条件を考えてみましょう。さきにも書きましたが、弾き手にとっての名器の条件とは、絶対的に弾きやすくて(体によくマッチするから指もよくまわり)大きな美しい音が簡単に出る、ということにあるはず、それは本来、値段や作者とそんなに関係するものとは思えません。

それからもう一つ弾き手にとって重要なのは、ガンガン弾きまくっても平気な、丈夫で健康な楽器であることです。

ヴァイオリニストが楽器を選ぶ場合、まずいい音を求めるはずだし、それは弾き手自身がいちばんわかることなはのだから、ストラディヴァリがいい、という昔からの定評に間違いはなはずだ、という反論もあるでしょうが、ちょっと待って頂きたい。

ヴァイオリニストは自分のために弾くのではありません。聴衆のために弾くのです。

人々がいいというのは、大ホールのいちばん奥でもしっかりといい音が響い

てくる楽器のことをいうのです。じつは弾き手にとっての「いい音」と聴き手にとってのそれとは必ずしも一致しないことが多いのです。それどころか弾き手にとってここちよい音というのは、よくいうスラングの「そば鳴り」現象が多く、自分は気持よくても、肝心の、遠くまでは音が到達しないという場合が多いのです。

*クイズ「本物はどれだ！」

ところで、実際に聴く側にとってのいい音という判断基準は、いったいどこにあるのでしょうか。百人が百人ともストラディヴァリの音はさすが、というほど確かな根拠はあるのでしょうか。

佐々木庸一という、ヴァイオリンそのものに大変造詣の深い人の著作「ヴァイオリンの魅力と謎」に、的確なことが述べられているので少し引用してみましよう。

昭和57年2月8日、NHKの「科学ドキュメント」で、ストラディヴァリなどの名器の音色が本当にいいのかどうかテストする実験が、「名器の条件」のタイトルで放映された。演奏したのは江藤俊哉、審査員はN響の弦楽器奏者三名、制作者一命、音楽愛好家二名であった。ストラディヴァリを含む七個の楽器を、それぞれ二回弾いて、回答用紙にその音色、音の特長などを判定し、記入したが、ストラディヴァリを当てた人は誰もいなかった。

ヴァイオリンというのは、こういう楽器なのである。耳でもって銘柄を聴きわかることはできないのである。誰が審査員になっても同じことである。たまに当てることができてもそれは極く稀でマグレの場合が多い。西洋では、これまでに古い楽器と新しい楽器のコンテストが何回も行われてきたが、古い名器の方が負けたりしている。楽器を耳で聴きわかることができないので、鑑定は主として目で行われる。古い名器の場合、鑑定家は楽器の善し悪しを目で確かめる。つまり楽器を全然弾かないでこのヴァイオリンはストラディヴァリの本物だ、ニセモノだと判定するのである。古いイタリアの名器は、ほとんどの場合、渦巻きの削り方、f孔の堀方、木材およびニス質の色、楽器の形で見当がつくのである。そしてこれは何某の楽器だと判定するのである。音は二の次である。弾いて見なくてもよい音が出るのはわかるのである。鑑定家によって製作者が決められて、この楽器はだれそれ作として、通常楽器商を通じて、演奏家にすすめられる。演奏家はその楽器を弾いて音を聴き、「なるほど、このストラディヴァリはよい音を出す」と納得し、その音が好きになれば購入するということになる。

佐々木氏の著作は私も何冊か持っているし、学生時代には、氏の訳された本によってヴァイオリンの知識を蓄えたものでした。

氏の著作の特長は、全編これ、ヴァイオリンに対する愛情、いとおしさに溢れているところにあります。そして、ヴァイオリンに対する、その歴史に対する、その音楽の数々に対する知識の深さには脱帽せざるを得ません。だから氏の著作は、ヴァイオリンの歴史に対して圧倒的に陽性であり、肯定的です。

べつに悪いことではないのですが、しかしものには両面の見方があるはずで

す。ヴァイオリンに対して素直な人ならなるほどと思えるようなことでも、私には反対に見えてしまうのです。

まず、ストラディヴァリの音色を当てた人は誰もいないという奇怪な事実を前にして、なぜ全然ヴァイオリンも弾かない有能な鑑定家からすすめられた楽器を「なるほど、このストラディヴァリはよい音を出す」と納得してそれを購入するのでしょうか。

よく考えればそのヴァイオリニストは、バカを通りこしてピーヒャララ、まんまと口のうまい楽器商にだまされたということになりはしないでしょうか。また楽器を全然弾かないで鑑定するというのもじつに変な話ですね。

けっして軽蔑するためというのではないけれど、ヴァイオリン製作者や修理者は確かにヴァイオリンを弾かないし、弾いても、あまりうまくはない人が多いと思います。

別に指は回らなくてもいいから、音程よく、確かな音を出す訓練くらいはしていてくれないと、彼らの言い分をうのみにするわけにはいかないのも仕方がないでしょう。

ではなぜ、そもそもストラディヴァリ神話は存在するのでしょうか？

少し歴史を振り返ってみましょう。

*今とは違う昔のストラディヴァリ

ストラディヴァリはヴァイオリン製作者の一族の苗字です。そのなかでもアントニオ(1644～1737)が一番有名で、いわゆるストラディヴァリとは彼のこともあります。

ところで、当時のヴァイオリン奏法や演奏される場所とかは、現在とはまったく違っているので、それをすこし並べてみましょう。

- いまほど E 線(一番高い弦)の高音部を使うことはなく、指板(指を押さえる場所で、おもに黒タンなどでできている、細長くて黒い部分)は、いまよりもっと短かった。

いまのように指板が胴体の真ん中あたりまで延びたのは18世紀後半のころからである。つまりストラディヴァリ原作のヴァイオリンの指板は、いまよりもっと短かったのだ。

- ピッチ、つまり音の高さだが、合奏で大勢がアンサンブルをするときの標準の音の高さはいまよりずっと低かった。

現在のAの高さは442ヘルツくらいだが、ヘンデルは392の音叉を使っていたし、モーツァルト調弦でも421だったという。つまりストラディヴァリの弦の張りは、いまよりもずっと弱かったということになる。

そしてストラディヴァリ時代に作られた楽器は、現在のピッチに適応できるように駒の高さを変え、内部の力木(ヴァイオリンの骨格)も、より強力なものへと付けかえられている。

- 弦の張りだけではなく、当時の弓は強く押しつけると、四本の弦がいっぺんに鳴るほど張りが弱かった。つまりいまのような大きな音は出なかったし、要求されてもいなかったのだ。

- 現代のようにオーケストラバックで二千人もの大ホールでコンチェルトをやるようになったのは、19世紀なかばごろからである。

ストラディヴァリ時代には不特定多数の人間が一堂に会するような大ホールはまったくなかったのである。

当時の演奏会場は、教会とか宮廷の大広間のような、いまで言えば室内楽程度の規模だった。

以上思いつくままに現在との違いを並べてみましたが、ストラディヴァリたちは決していまのような大きな音を出すことを考えてヴァイオリンを作ったのではなかったのです。すべて後世の人たちが改造を加え、現在のような音になっていったのです。

ではなぜ、それでも「ストラディヴァリはいい音がする」といわれるのでしょうか。

ヴァイオリン製作者や研究者が口をそろえて言うのは、そこまで手を加えてもなおかつ、他のヴァイオリンを寄せ付けないほど素晴らしい音の出るストラディヴァリは、だから絶品なのだと。しかしそれは私にとっては絶対に信じられないことです。

佐々木氏の著作からも引用したとおり、NHKの実験でもストラディヴァリの音のよさというものは、だれひとり確認できなかったのですから。

*歴史の陰謀

ではストラディヴァリ神話のなぞめいた根拠はどこにあるのでしょうか。

私の推理はずばり、ストラディヴァリは、一種の「メートル原器」のような役割を果たしているのではないかというものです。

なんだかんだといっても、人間の判断基準には、ある種、絶対的な裏付けが欲しいものです。そうでないと、とくにヴァイオリンのように値段に格差があるものの根拠が不明になってしまうし、無節操に時代の要求に合わせて改造を加えていくと、もともとのヴァイオリン固有の形も失われかねない。そういうことを防ぐ巧妙な知恵として「絶対的なヴァイオリンの鑑」という神話が必要となり、そのモデルとしてストラディヴァリが選ばれ、祭りあげられていったのではないのでしょうか。

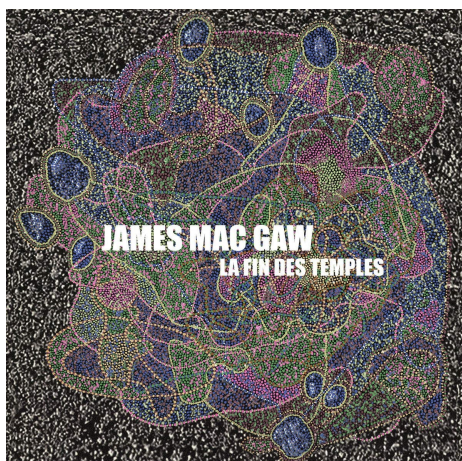
陰謀史観という歴史の見方があるって、ヒネクレものの私なんかドキドキするようなキワモノ的な史観なのです。その見方をする一部の人たちの間では、マルクスやノストラダムスは実在しなかったという話がまことしやかにささやかれています。いや、マルクスもノストラダムスも、その名を持った人物がいたのは事実だが、その著作は本人のものではなく、彼らの名前のもとに、大勢の仕掛け人(歴史を虚構化する使命を帯びた人たちが)共作した、というものです。

私もこういう歴史感は大好きで、そのデンでいけば、いわゆる「ストラディヴァリ神話」は虚構で(本人が実在したかどうかと話は別)すぐれたヴァイオリンに、片っ端からストラディヴァリのレッテルを張っていったのではないかと、というような邪推も十分成り立つわけです。

ちなみに、いま現在残っているアントニオ・ストラディヴァリの本物とされているのは、ヴァイオリン 334 個、ヴィオラ 21、チェロ 47 の計 402 とされています。

1937年、イタリアのクレモナでストラディヴァリ死後 200 年祭がひらかれ、ストラディヴァリ名器展示のため、全世界のコレクターに呼び掛けたところ、2000 個もの出品があったが、大半が偽もので、本物はたったの 40 個だったそうです。

CD レビュー 純正茶寮
『Learn to Talk』 (1984)
純正律音楽研究会理事 黒木朋興



『La fin des temples』 (2021)
James Mac Gaw
レーベル : Soleil Zeuhl

今回は大切な友人の遺作を紹介したい。フランスを代表するジャズロックバンド MAGMA のギタリストを 1997 年から 2015 年まで務めた James Mac Gaw (ジェイムズ・マクゴウ) である。

2021 年 3 月 8 日、彼の訃報が FB 上で伝えられた。

MAGMA から派生した音楽は Zeuhl 系と呼ばれている。その特徴はジャズの本場アメリカではサクソなどの管楽器のパートを、ヴォーカルが取るところにある。ジェイムズの本作においても複数のヴォーカルが主旋律を受け持っている。また、フェンダーローズの愛用も MAGMA 影響下にあると言って良いだろう。

MAGMA での演奏を想定して作られた楽曲だそうだが、本家の MAGMA に比べてエキゾチック色が薄い。MAGMA のクリスチャン・ヴァンデルが東欧の血を引いていることを隠さず、音楽にもカール・オルフの楽曲のように東欧の要素が入っているのに対し、ジェイムズのメロディは素直な印象だ。

また、MAGMA のヴォーカルがユニゾンを基本としているのに対し、ジェイムズの方はハモリを多用している。その意味で純正律音楽研究会に紹介するにはより好ましいということになるだろう。

ただ、Zeuhl 系の面白さは単にハモリにあるわけではない。管楽器によるメロディラインと違って歌詞がついていることが重要なのだ。MAGMA の歌詞はコバイア語という人造言語であることは有名である。このコバイア語は会話ができる類のものではなく、単なる音の連なりに過ぎずコミュニケーション能力は全くない。クリスチャンによれば、ジャズのスキヤットと同じとのことだ。しかし、メロディーを奏でる上で、例えば、ラの音を出す場合、「KA」という音と「STU」では聴こえる印象は違ってくる。各音素の周波数が違うのであるから当然と言えば当然である。このようにアルファベットをメロディに当てていく作業のことは作詞と呼ぶこともできるが、その歌詞に意味はなく、メロディとリズムに

対してヴォーカルが歌う音の要素を当てていくわけであるから、この作詞作業は作曲とみなすこともできるだろう。

単に楽音がハモっているかいないか、あるいは音が性格に取れているかいないか、だけではなく、言葉の持つ音の響きにまで気を使い楽曲を編んでいる彼らの繊細さは、まさに純正律音楽研究会の我々も大いに注意を払うべきテーマであると思う。このアルバムは、ジェイムズも MAGMA の一員であったことを確認させてくれる作品である。

最後に、2021年3月8日に永眠した私の友人、James Mac Gaw の冥福を祈る言葉を記しておきたい。

宗教から見た大国インドの背景と現状（1）

純正律音楽研究会 正会員
弁護士 齋藤 昌男

目次

- 第1. 緒論
- 第2. インドの概要
- 第3. インドの宗教
- 第4. カースト制度
- 第5. ヒンドゥー教の特徴
- 第6. ヒンドゥー教の聖典
- 第7. ヒンドゥー教の神々
（今回（1）はここまで）
- 第8. ヒンドゥー教の教理
- 第9. インド思想の流れ
- 第10. ジャイナ教
- 第11. アーjeeヴィカ教
- 第12. シク教
- 第13. 石窟寺院（世界遺産）
- 第14. ヒンドゥー教系新宗教
 - 1. サティヤ・サイ・ババ協会
 - 2. クリシュナ意識国際協会
 - 3. ラジニーシ運動
 - 4. シャイヴァ・シッダーンタ教会
 - 5. 超越瞑想
 - 6. ラーマクリシュナミッションと高弟ヴィヴェーカーナンダの思想

第1. 緒論

- 1. 日本とアメリカ、日本とEU（イギリスを含む）との貿易量は年々減少の傾向にあります。これに比べて、日本と中国、日本とアセアン諸国やインドとの貿易量は年々増加傾向にあります。大国インド（人口は2021年には中国を抜くとの試算もあります）との貿易量は特に増加傾向にあり、物の売買ばかりでなく、投資や人の交渉も、コロナが終れば、間違いなく増加するものと思われま

2. しかし、平均的な社会である日本と違って、インド程、聖と俗との格差の激しい国は他にはありません。この聖と俗との格差、落差乃至振幅を多少なりとも埋めて、インドをより深く理解するために本論稿を書きました。

第2. インドの概要

1. 面積 328万8,000平方キロメートル（日本の約10倍）
2. 人口 約12億2000万人
（2012年）
3. 首都 ニューデリー
4. 民族 多言語国家であることは改めて述べますが、言語からインドの民族を見ると、下記の様になります。

(1)インド・アーリア語族

かつて欧州からやってきてインドを支配した勢力の子孫と言われ、概して色白で背が高いのが特徴です。ヒンディー語 (Hindi) やパンジャービー語 (Punjabi) など北インドの主要言語を網羅しています。

(2)ドラヴィタ語族

彼等は紀元前にアフガン高原からインド北西部に入ってきて、インダス文明の主要な担い手となりました。

(3)シナ・チベット語族

中国の国境に近い山岳地帯に分布しています。外見は中国人や日本人に似ています。

(4)オーストロ・アジア語族

東南アジアからインド東部、バングラデシュに散在する言語の語族です。風貌は東南アジアに近くなります。

5. 宗教 詳細は別途述べますが、インドは世界でも類を見ない宗教国家です。そのなかでもヒンドゥー教が全人口の約8割を占めます。

ヒンドゥー教 80.5% 8億2,758万人

イスラム教 13.4% 1億3,819万人

キリスト教 2.3% 2,405万人

シク教 1.9% 1,922万人

仏教 0.8% 765万人

ジャイナ教 0.5% 450万人

ゾロアスター教 ごく少数

出典 インド統計局資料（2011年）

6. 多言語国家

インドは28の州と6つの直轄地、及び首都からなる連邦国家です。州の区分は、原則として言語に基づいており、これを「言語州」と呼んでいます。

インドに単一の「インド語」なるものは存在しません。公用語としては、連邦公用語であるヒンディー語をはじめとして、各地の州政府によって制定されている州公用語があります。そして憲法によって認定された言語が22（2016年現在）あります。そして、ヒンディー語は連邦国家の公用語として、それ以外のものに優先するかたちになっています。

インドで母語と用いられている言語は、方言を含め1683種類あり、そのうち850の言語が社会生活で使用されていると言われております。

然も地域による相違だけでなく、階層間やカースト間の相違もあります。

インドという一つの国なのに、どうしてこの様な状況になったのでしょうか。それは、次の様な事情によります。もともと別々の国だったり異なる背景を持った諸地域をイギリスが「植民地インド」に統一し、それが独立して現在のインドになりました。植民地期の地方行政区分が、独立後に地域言語の境界によって線引きし直され（言語州）、州ごとに違う言葉を持つ状況が生まれました。

インドの言語は大きく4つのグループに分けられます。インドの中央をほぼ東西にはしるヴィンティヤ山脈（Vindhya Ra.）を境界線として、北インドにはヒンディー、ベンガリー、マラーティーなど、西洋諸語と親類関係にあるインド・ヨーロッパ系諸語が用いられています。それに対して南インドでは、テルグ、タミル、マラーヤム、カンナダなど、それと全く系統を異にするドラヴィタ系の諸語が使用されています。この他に、主として北部と東北部国境に近い山岳地帯の少数民族が使用するラダーキー、ネワリー、マニプリー、レプチャなどを含むシナ・チベット系の諸国、ビハール、西ベンガル、オリッサの3州にまたがる山地に住むムンダー、サンタール等の諸族が語るオストロ・アジア系の諸語が存在します。インド・アリア系の言語の話者人口が約74パーセント、ドラヴィタ系の言語の話者が約25パーセントにも達するのに対して、シナ・チベット系の諸語の話者人口はインド共和国の人口の僅か0.73パーセントにすぎず、オストロ・アジア系は、1.5パーセントです（春秋社発行前田専學著「インド的思考」13ページ参照）。

7. 政治体制

統治機構は三権分立、議会制民主主義、連邦制の3本柱。政体は共和制、議会は二院制、28の州と6つの連邦直轄地があります。

8. GDP 2兆074億ドル

（2015年：世銀資料）

9. 一人当たりGDP 1,581ドル

（2015年：世銀資料）

第3. インドの宗教

1. インドには、ヒンドゥー教、仏教、ジャイナ教、シク教などの宗教が存在します。民族文化の基礎となるのは、ヒンドゥー教で、仏教は一時期大きな勢力となりましたが、ヒンドゥー教に吞まれて衰退しました。

2. バラモン教（Brahmanism）

紀元前13世紀ごろに誕生した、古代インドの宗教で、司祭階級バラモンを中心として、複雑な祭司儀礼を発達させました。バラモン教は多神教であり、日本の神道の八百万の神と同様に、自然界や生活のさまざまな分野で、神々が存在しているとします。その神々をブラーフマナと呼ばれる司祭階級が、祭礼によって人々を支配していました。この古代インドで発展したバラモン教を母体として、インドの民間信仰や習俗と融合しながら4世紀ころ成立したのがヒンドゥー教です。

なお、現在、バラモン教という宗教は存在しません。完全にヒンドゥー教に姿を変えてしまっております。

3. 仏教（Buddhism）とジャイナ教（Jainism）

紀元前5世紀前後からの自由思想時代に、無数の思想家が誕生しました。その中に仏教の開祖・釈迦（本名 Sidhartha Gautama）やジャイナ教の開祖・マハーヴィーラ（Mahavira）がおります。バラモンの伝統を相対化して、解脱修行に励む教団を作りました。そして西暦紀元前後には大乘仏教が誕生しました。

インドを統一したアショーカ王（生没年未詳）は仏教を信仰しました。西暦紀元前後、インドの諸都市がローマ帝国との交易でにぎわっていたころ、仏教はとくに都市間で流行しました。ところが、その仏教はヒンドゥー教に吞まれて衰退してしまいました。その理由は、徐々に教義が難解になったため、大衆の支持を失ったこと、またカースト制度に反対した仏教は、ヒンドゥー教に弾圧されたとも言われています。

4. ヒンドゥー教

ヒンドゥー教は、インド及びすぐ隣のネパールなどの南アジアの諸国を中心に、世界の約9億人の人々が信奉する宗教です。しかし、ヒンドゥー教はインドの土着の信仰に由来するため、ヒンドゥー教徒の大半は南アジアで暮らしています。その上、ヒンドゥー教と結びついたカースト制度がインドの外では受け入れにくいいため、世界宗教ではなく、民族宗教と考えられています。この為、キリスト教、イスラーム教について、ヒンドゥー教徒は多いのですが、世界三大宗教と言った場合に、仏教にその座を譲っています。

「ヒンドゥー」Hindu の語源は、サンスクリットでインダス川を意味する *sindhu* に対応するペルシア語で、インダス川対岸に住む人々の意味で用いられ、西欧に伝わり、インドに逆輸入されて定着しました。インド植民地時代に大英帝国がインド土着の民族宗教を包括的に示す名称として、採用したことから、この呼称が広まりました。中国、韓国では「印度教」と呼ばれますが、現在のインドは世俗国家であり、国教はないので、インド教と呼ばれません。

ヒンドゥー教の範囲に関して『ウィキペディア』は、次の様に言っております。

インド国内の広義の定義においては、「ヒンドゥー教」にはキリスト教やイスラーム教などインド以外の地域で発祥した特定宗教以外のすべての宗教が相当します。一例として、インドにおいて仏教はヒンドゥー教の一派とされます。インド憲法25条では、（ヒンドゥー教から分派したと考えられる）シク教、ジャイナ教、仏教を信仰する人も広義のヒンドゥー教として扱われています。

ヒンドゥー教には極めて様々な信仰、霊性や風習が包括され、かつ体系化されています。一方でキリスト教に見られるような教会制度や宗教的権威は存在せず、また預言者も居なければ纏まった形の共通の聖典も存在しません。よってヒンドゥー教徒は多神教、汎神論、一神教、不可知論、無神論、ヒューマニズムを自身の思想として自由に選ぶことができます。ヒンドゥー教の包含する信仰、思想、真理は広範で、そのため「ヒンドゥー教」に包括的な定義を与えることは困難であります。これまでにも、1つの宗教である、1つの風習である、信仰の集合である、生活様式である、と言った具合に様々な定義されてきました。

また、『ウィキペディア』は、ヒンドゥー教のひろがりについて次の様に言っています。

インドでは人口の80.5%を占める8億2758万人、ネパールでは仏教とともにヒンドゥー教が信奉され、人口の90%、バングラデシュでは人口の14%、スリランカは15%がヒンドゥー教徒であります。インドネシアのバリ島では人口の約9割がバリ・ヒンドゥーと呼ばれる独自の習合宗教を奉じ、その数は300万人、マレーシア、シンガポールにも相当数の信者が住んでいます。パキスタンでは1.6%程度であり、キリスト教に並んで多くおります。さらに、

インド洋のモーリシャスや南太平洋のフィジー、南米のガイアナのように、インド系住民が多い国でも信者が多くいます。世界全体での信者数を比較してみるとヒンドゥー教徒は仏教徒よりも多くなります。

第4. カースト制度

1. カーストという単語は、もとポルトガル語で「血統」を表す「カスタ」(casta)であります。ラテン語の「カストゥス」(castus) (純粋なもの、混ぜてはならないもの、純血) に起源を持ちます。

15世紀にポルトガル人がインド現地の身分制度であるヴァルナ (varna) とジャーティ (jati) を同一視して「カースト」と呼びました。従って「カースト」が歴史的に脈々と存在したというよりも、植民地時代後期の特に20世紀において「構築」または「捏造されたもの」と言われております。

2. カーストは歴史的に基本的な分類ヴァルナ (種姓) が4つあり、その下に職業を世襲するジャーティ (生まれ・出生) と呼ばれる社会集団が形成されて、例えば「牛飼いのジャーティ」や「羊飼いのジャーティ」や「大工のジャーティ」や「床屋のジャーティ」や「壺作りのジャーティ」や「清掃のジャーティ」などがあり、職業が世襲されて、インド社会には排他的な職業・地縁的社会集団が3000もあります。そして自分と同程度の他のジャーティとだけ結婚出来ることになっています。ジャーティは、必ず他のヴァルナの下に結びつけられており、この様になったのはAD10世紀頃からの事であるとされています。

3. ヴァルナの枠組み

(1) ブラフミン (サンスクリットブラーフマナ、音写して婆羅門 (バラモン))

神聖な職に就けたり、儀式を行える。バラモンというのは「ブラフマン (梵) を有するもの」の意味で自然界を支配する能力を持つものとされています。「司祭」とも翻訳されます。

(2) クシャトリア

王や貴族など武力や政治力を持っています。「王族」「戦士」とも翻訳されます。

(3) ヴァイシャ

商業、農業、牧畜、工業及び製造業などに就くことが出来ます。のちに主として「商人」を指すようになりました。

(4) シュードラ (スードラ)

古代では、一般的に人が忌避する職業にしか就けませんでした。時代の変遷とともに中世頃には、ヴァイシャ及びシュードラの両ヴァルナと職

業の関係に変化が生じ、ヴァイシャは商売を、シュードラは農牧業や手工業など生産に従事する広汎な「大衆」を指すようになりました。「労働者」とも翻訳されます。

(5) ヴァルナを持たない人びと（アウト・カースト）もおおりアチュートといます。「不可触民（アンタッチャブル）」とも翻訳されます。「不可触民」は「指定カースト」ともいわれます。1億人もの人がアチュートとしてインド国内に暮らしています。彼ら自身は、自分達のことを「ダリット」（Dalit）と呼んでいます。ダリットとは壊された民（broken people）という意味です。カーストによる差別は1950年の憲法で禁止されています。

4. ヴァルナ（種姓）はどの様にして発祥したか。

アーリア人はトウーラーン近郊を起源としておりますが、このあたりに存在する疾患にしか免疫（液性免疫・細胞性免疫）しか有していませんでした。アーリア人の侵略範囲が拡大してくると、トウーラーンから離れれば離れる程、アーリア人が全く経験したことのない感染症を原住民が保有・保菌している事態が出てきました。次々とアーリア人のみが風土感染症により死亡する事態が出てきました。これに対応するために、アーリア人とそれ以外の民族との「隔離政策」「混血同居婚姻禁止政策」であり、アーリア人はこの政策を宗教に組み入れ、ヴァルナ制度として確立させたとの説があります。

5. カースト制のメリット

橋爪大三郎著『世界は四大文明でできている』NHK出版発行、154ページ以下を引用します。

「カースト制が生まれた古代では、奴隷制が主流でした。奴隷制と対比すると、カースト制はどうみえるでしょうか。

カースト制の特徴

第一に、奴隷がない。差別はあるが、それは身分の違いで、奴隷ではない。

第二に、全員が、結婚できる。家族を営める。結婚相手を自由に選べるわけではないけれども、文句を言わなければ、大部分のひとが結婚できる。

第三に、みな、私有財産権をもっている。人びとは、ファミリービジネスに従事している。ファミリービジネスは、生産手段を家族で所有していて、私有財産がある。実際には大した財産を持っておらず貧しい場合も多いかもしれないが、私有財産「権」をもっている。それなら、がんばれば、運が良ければ、豊かになれる可能性がある。

古代奴隷制と対比すると、カースト制は、よくできた仕組みだと言えます。それは、奴隷制を回避し、すべての人びとに、私有財産権と家族とを配分する。おまけに、めいめいが生きていくための、職業も割り当てる。カースト制を守っている限り、この状態が永続する。カースト制は、古代の、社会保障システムだと言うこともできるのです。

カースト制は、分業システムだから、相互依存のネットワークをつくり出します。相互依存は、争いを少なくする。社会変動の余地も少ない、超安定社会です。

カースト制は、成功した仕組みでした。古代奴隷制は、人間の生存の基本

的条件を保障できず、人間に重すぎる負担をかけ、持続可能でなかった。それにひきかえ、カースト制は、人間の生存の基本的条件を満たし、持続可能なシステムだったので。

成功した仕組みは、変えるのがむずかしい。ゆえにカースト制は、3000年も続いたのです。」

6. おぞましい話ですが、もう一つ引用しておきたい書物があります。

宇山卓栄著『宗教読み解く世界史』日本実業出版社96ページ以下です。

「インドでは、19世紀まで、女性を生きのまま焼き殺すサティというヒンドゥー教の儀式がありました。死んだ夫の亡骸を焼く炎で、生きている妻も焼きました。サティは『寡婦焚死^{かふふんし}』と訳されます。

17世紀半ば、インドを旅したフランス人旅行者で医師のフランソワ・ベルニエはサティの様子について、『ムガル帝国誌』の中で詳しく書き記しています。ベルニエはインドで、夫を亡くした12歳くらいの少女がサティで無惨にも焼かれるのを見ました。燃え盛る炎を前に、少女は震え、泣き、逃げようとしたのですが、周囲の人が無理矢理、彼女の手足を縛り、炎の中に押しやったと述べています。

(略)

サティで焼かれるのを拒否した女性もまた、悲惨でした。彼女らは裏切り者として、ヒンドゥー社会から排除され、被差別階級であった『アウト・カースト』、つまりカーストの階層には入れない『不可触民^{ふかしょくみん}（触れてはいけない人）』の男らにあてがわれ、慰みものとなりました。

サティの儀式の場には、無数の『不可触民』の男たちが周囲に群がり、若い女性が炎から逃げるのを待ち構えていました。彼らは逃げた女性をケモノのように貪りました。逃げた女性をあえて公に、『不可触民』の餌食にして見せて、社会的に抹殺したのです。そのため、サティの儀式には、必ず『不可触民』の男たちが呼ばれました。」

7. さて1950年に制定されたインド憲法では、カースト制度を次の様に規定しています。

第3編 基本権

第15条（宗教、人種、カースト、性別 又は出生地を理由とする差別の禁止）

(i) 国は、宗教、人種、カースト、性別、出生地又はそれらのいずれかのみを理由として、市民に対する差別を行ってはならない。

(ii) 市民は、宗教、人種、カースト、性別、出生地又はそれらのいずれかのみを理由として、次に掲げる事項に関し無資格とされ、負担を課され、制限を付され、又は条件を課されることはない。

(a) 店舗、公衆食堂、旅館及び公共の娯楽場への立入り

(b) 全部若しくは一部が国家資金により維持され、又は一般の用に供されている井戸、用水池、浴場、通路又は娯楽地の使用

8. その他の世界のカースト

(1) ネパール

先日、元ネパール大使の神永善次氏と話をしていたら、ネパールにもカースト制度があると言っておられました。インドの陸続きということでは

あれば、当然の事の様です。言語の関係から言うと、ネパール語は西暦10～11世紀頃には成立しており、ネパール系住民が多いインドのシッキム州ではネパール語が公用語となっているそうです。ネパールのカースト制度は、インドのカースト制度とは若干異なる様です。いずれにしてもヒンドゥー教から来ているものだと思います。

(2) バリ島

インドネシアはイスラム教の世界なのでカースト制度があるのかと聞いたところ当然にあるという。バリ島のカーストで特徴的なのは、いわゆる不可触民に相当する身分がないことであるそうであります。元々、バリ島では、身分差が曖昧であったが、オランダの植民地支配が始まり、徴税のためにカースト制度を整備したそうです。

(3) ミャンマー

カレン族はミャンマー南東部・タイ西部の山地に住む少数民族です。彼等は、キリスト教宣教師やイギリス植民地政府らによって下位カースト人口 (low-caste-people) とか汚れた民 (dirty-feeders) として扱われました。

(4) ヤジディ教

中東のクルド人の一部で信じられているヤジディ教は、改宗を禁じ、厳しいカースト制をもっている宗教だそうです。一説では、ヤジディ教のルーツはインドにあると言います。

第5. ヒンドゥー教の特徴

1. 河川崇拝

ヒンドゥー教は河川崇拝が顕著であり、水を使った沐浴の儀式が重要視されます。特にヒマラヤに源流を持ち、インド北部を流れるガンジス川 (Ganges) は、全長約2500km、数多くの支流と広大な流域面積を持った大河で、ヒンドゥー教徒にとって聖なる川とされています。ガンジス川は川の水そのものがシヴァ神の身体を伝って流れ出て来た聖水とされ、川自体も女神ガンガーであるとみなされています。ガンジス川にはガードと呼ばれる大きな階段があり、人々はそこから降りてガンジス川の水に身を浸します。しかし、申すまでもなく、川の水の衛生状態はひどいものです。

2. 菜食主義

ヒンドゥー教は不殺生を旨とし、そのため肉食を忌避するので菜食主義の人が多くおります。しかし、身分やしきたりによって、その度合が異なります。一般的な菜食は植物に加えて鶏卵も可とする人と、鶏卵を不可とする人がおります。

ピュア・ベジタリアンにはジャイナ教徒、保守的なヒンドゥー教徒、厳格なバラモン家系の人、修行者がおります。野菜の中でも根菜類は、収穫の際に地中の生物を殺す恐れのあるタマネギなどの根菜類を非暴力を重視するジャイナ教徒や、カシミール地方のバラモン階級の人には、これらを食べません。また菜食主義者のなかには精進料理の鰹節の出汁でとった味噌汁も飲まない人がいます。

3. 聖牛崇拝

ヒンドゥー社会において牛は崇拝の対象となっています。神話にもたびたび牛が登場し、たとえばシヴァ神の乗り物はナンディンという牡牛であり

ます。実社会では牡牛は移動・運搬・農耕に用いられ、牡牛は乳を供し、乾燥させた牛糞は貴重な燃料となります。但し、聖別されるのは主として瘤牛で、水牛は崇拜の対象とはなりません。

4. ヨーガ

ヨーガとは心身の統一と訓練によって行う宗教的実践法であり、同時にそれによって得られた心身の状態をも指します。その起源はインダス文明の精神的伝統にさかのぼります。ヨーガはヒンドゥー教の専有物ではなく、インドの諸宗教で実践されており、仏教に取り入れられたヨーガの行法は、中国、日本の禅などの修行法にもつながっています。ポーズや呼吸のトレーニングを軸にした美容やダイエットだけがヨーガではありません。仏教の開祖、釈迦もヨーガを通じて悟りに至ることが出来ました。しかし、ヨーガが正統に受け継がれたのは、仏教ではなく、ヒンドゥー教であります。2世紀から4世紀に編纂された『ヨーガ・スートラ（瑜伽経）』という経典を基本としています。

5. サドゥー（行者、苦行僧、聖者）

ヒンドゥー教におけるヨーガの実践者や放浪する修行者の総称です。現在、インド全域とネパールに400万人から500万人のサドゥーがいると言われています（Wikipediaより）。このサドゥーのなかには、IT企業の元CEOの様な功成り上げた人も入っているそうで、実にインクレディブルであります（明日香出版社発行『インドのことがマンガで3時間でわかる本』164ページ）。

6. グル信仰

ヒンドゥー教で重要な位置を占めているのがグルであります。グルとはサンスクリット語で、重いもの、闇から光へ導くもの、導師という意味であります。グルはヨーガの修行を成就するにあたって、必要不可欠なものとしてされています。オウム真理教は、グルという言葉ここから取って真似たものです。

7. 女性

ヒンドゥー教の解脱や浄性に関する価値観において女性の位置づけは低く、一般的に無知で不浄で社会的にも霊的にも劣っていると考えられてきました。近代インドにおいてヒンドゥー教とイスラーム教の女性には差はなく、両者ともに社会的にも経済的にも男性に依存してきました。

インド憲法では男女の完全な平等が保証されています。言うまでもなく、男女の不平等は多くの形で残されています。

第6. ヒンドゥー教の聖典

インドの聖典は、シュルティ（天啓聖典）とスムリティ（古伝書）とに分かれます。

1. ヴェーダ（Veda）

ペルシャから西北インドに向けて移住してきたアーリア人の宗教儀礼に関する文献が数多く残されています。古代のリシ（聖人）達により神から受け取られたと言われ、シュルティ（天啓聖典）と呼ばれます。それらの文献のうち最も重要なものは、「ヴェーダ」です。「ヴェーダ」とは知識の意味です。ヴェーダは口伝によってのみ伝承されて来ましたが、文字が使用されるようになって文字にすることを避けられ、師から弟子に伝えられ、後になっ

て文字に記されましたが、文字に記されたものは、ごく一部であるとされています。

ヴェーダは、現在、ヒンドゥー教の中心と見做されています。しかし、「ヒンドゥー」という語は、初期の聖典には記されておらず、16世紀以降の文書にのみ登場しております。バラモンは、何世代も語り継ぐ暗唱による口頭伝承によってヴェーダを維持してきました。「ヴェーダ」は全部で4編あります。「リグ・ヴェーダ」「サーマ・ヴェーダ」「ヤジュル・ヴェーダ」「アタルヴァ・ヴェーダ」の4つです。「リグ・ヴェーダ」には讃歌が収められており、神々への奉納と祈願を司る祭官がこれを用いました。残りの3編はもとも補助祭官が用いる葬儀の手引であります。

ところでヴェーダに関しては、気になる記述があります。M. B. ワング、山口泰司訳「ヒンドゥー教」（改訂新版）、青土社発行、203ページに次の記述があります。

「女性には『ヴェーダ』を読むことも『ヴェーダ』を聞くことも、ともに禁じられているからである。じっさいヴァルナーシュラマ・ダルマの制度のもとでは、女性には精神的傾向が欠如していると信じられていたため、女性は、人生の四住期のいずれに入っていくこともなく、娘時代は父親に依存し、大人の女性としては夫に依存し、そして年をとれば息子の負担となって、一生を過ごしたのである。」

ヒンドゥー教は男性のための宗教な のでしょうか。

2. 聖典には、他にシシ（聖人）達によって作られたスムリティ（古伝書）があり、ヴェーダとは区別されています。スムリティには、マハーバーラタ（Mahābharata）、ラーマヤナ（Rāmāyana）、マヌ法典などがあります。

(1) マハーバーラタは、世界3大叙事詩のひとつです（残りの2つは「イリアス」（Ilias）とフィンランドの民族叙事詩「カレワラ」（Kalevala）です）。バラタ族に属するクル族の100人兄弟とバーンドウ族の5人の兄弟の間に起った戦争物語で、ここに描かれている古代の大戦争を実際にあった事件とみる説も根強くあります。ちなみに西遊記の主人公孫悟空の原型も登場します。

マハーバーラのなかには、いくつもの物語が散りばめられておりますが、特に有名なのは、「バガバッド・ギーター」（Bhagavad Gita）で、意気消沈してしまったアルジュナ王子に「勝ち負けを度外視して戦いに赴け」と王子の戦車の御者であったクリシュナに言われますが、この御者はじつはヴィシュヌ神であったと書かれています。

(2) ラーマヤナの成立は、マハーバーラタより少し遅れましたが、その大枠は、3～4世紀に出来上っていたとされています。ラーマ王子の行状（アーヤナ）を描いた物語です。王位継承権を奪われたラーマ王子が、魔神ラーヴァナに妃シーターを奪われてしまいますが、妃を奪い返し、自分の王国に戻って王になるというストーリーです。

(3) マヌ法典は、紀元前後に成立したインドの法典で、ヒンドゥー教徒の生活を規定しており、バラモンの特権的身分を強調しており、後代の法典の基礎となりました。

第7. ヒンドゥー教の神々

1. ヒンドゥー教は多神教ですが、その中心となるのは、ブラフマー（Brahma）、

ヴィシュヌ (Visnu)、シヴァ (Siva) の3神であります。この3神のうち、どの神を最高神とするかで、宗派が分かれます。とくにヴィシュヌ派とシヴァ派が2大宗派となっています。

ブラフマーがこの世を創造し、ヴィシュヌが維持し、シヴァが破壊するという関係にあります。

ただし、ヒンドゥー教の3大信仰といわれる場合は、ヴィシュヌ崇拝、シヴァ崇拝、母神・女神がこれにあたり、ブラフマーは含まれません。

2. ブラフマー

ウパニシャッド (ヴェーダの最終部分にあたる) 思想の最高原理をブラフマンと言いますが、「宇宙の統一原理」「万有の根本原理を意味します。そのブラフマンを人格神として神格化したものがブラフマーで、4つの顔 (ヴェーダの4部門に応じて顔が4つある)、4本の腕を持ち、手にはそれぞれ数珠 (じゅず) または弓、聖典ヴェーダ、水瓶、笏を握った男 (しばしば白髪の老人) として描かれます。

3. ヴィシュヌ神

ヴィシュヌ神は竜王の上に坐し、4本の手でチャクラ (円盤型の武器)、棍棒、法螺貝、蓮華を持ち、ガルダ (神鳥) を乗り物としています。配偶神はラクシュミー (Lakshmi) と言います。地方のさまざまな神話を取り込んだため、10に化身 (アバターラと呼ぶ) することで知られています。

- (1) 魚
- (2) 亀
- (3) 野猪
- (4) 人獅子
- (5) 矮人 (わいじん)
- (6) 武人バラシュラーマ
- (7) 王子ラーマ (「ラーマーヤナ」の主人公の王子)
- (8) 英雄クリシュナ
- (9) ブッダ (釈迦のことだが、ネガティブな描き方をしている)
- (10) カルキン (未来に現われる筈のヴィシュヌの化身)

以上の10の化身のうち、特に人気のあるのが、クリシュナ神 (Krishna) であります。幼児時代から神秘的な逸話につつまれ、笛の名手の牧童として牧女達に愛され、彼女達の永遠の恋人として描かれています。「バガヴァッド・ギーター」では哲学を語り、ヒンドゥー教で最も人気のある神の一神となっています。

4. シヴァ神

シヴァは二面的な性格を持ち、一方では破壊と死の神とされ、他方では生殖と豊穡の神であります。シヴァ神のいま一つの姿をあらわす最もよく知られているのが、踊りの王ナタラージャ (Nataraja) だと思われれます。

ガネーシャは英知をつかさどり障害をとり除くとされる神で、シヴァとパールヴァティーのあいだに生まれた子とされ、象頭の神です。ガネーシャは仏教にも取り入れられて歓喜天となっています。

5. 母神・女神崇拝

ヒンドゥー教では、さまざまな女神を崇拝します。以下に挙げた女神の多くは、シヴァの神妃として聖典に登場します。

(1) パールヴァーティー

シヴァ神妃の最も温和な姿がパールヴァーティーであります。パールヴァーティーは「山の娘」という意味で、ヒマラヤ山脈から生まれたとされています。

(2) ラクシュミー (Lakshmi)

豊潤と好運をつかさどる神とされています。ラクシュミーはヴィシュヌの配偶神であり、ヴィシュヌが化身するときは、ラクシュミーも化身するために、彼女は多数の姿を持っています。ラクシュミーは仏教に取り込まれて吉祥天となっています。

(3) カーリー

シヴァ神妃の恐ろしい化身で、カーリーは墓地で踊り、血を飲み、魔族を殺戮すると言われています。

(4) ドゥルガー (Durgā)

ドゥルガーは、シヴァの配偶神デーヴィーの化身のひとつで、夫のシヴァと同様、両義的な存在であります。

6. その他の神々

(1) インドラ (Indra)

聖典リグ・ヴェーダにおいて最も多くの賛歌がささげられている神で、仏教に取り入れられて帝釈天となりました。

(2) アグニ (Agni)

地上の人間と天上の神々との仲介者ともされ、聖典リグ・ヴェーダでは、軍神インドラに次いで多くの賛歌がささげられています。

現在、インドの保有する中距離弾道ミサイル「アグニ1」と「アグニ2」はこの神の名に由来します。

以上

2021年1月26日脱稿



おたより募集！

会報のご感想、ご意見、純正律音楽にまつわること等々、なんでもお寄せ下さい。たくさんのお便りを、お待ちしております。

次号の【ひびきジャーナル】にてご紹介させて頂きたいと思っております。

〒168-0072

東京都杉並区高井戸東 3-2-5-102 NPO 法人 純正律音楽研究会

お電話：03-5317-0291 FAX：03-5317-0289

e-mail：puremusic0804@yahoo.co.jp <http://just-int.com/>

2021年5月14日 発行責任者：NPO 法人 純正律音楽研究会 編集 相坂政夫

***純正律音楽研究会 YouTube チャンネルを開設しました。**

コンサートや CD 紹介の映像が当会ホームページからご覧いただけます。

<http://just-int.com/>